

虹別コロカムイの会

設立：H6
所在地：別海町

団体の概要

「虹別コロカムイの会」は、かつては北海道各地に生息していたシマフクロウの現状を憂慮し、少しでもシマフクロウが生存しやすい環境をつくるため、平成6年に設立されました。

河川流域の植樹や清掃活動、河畔林などへの巣箱の設置、サケの稚魚の放流などシマフクロウが生存しやすい環境づくりを整備するとともに、「西別川流域コンサート」(11回開催)や「摩周水環境フォーラム」の開催、学校への講演など、普及啓発も実施しています。

シマフクロウの保全を通じて、川・海を守ることが、地域の基幹産業である酪農と漁業も守ることにもなるという考えのもと、環境保全と産業活動を両立する地域づくりを実践しています。



団体の取組等

○シマフクロウの森づくり百年事業植樹

シマフクロウが生存しやすい環境づくりのため、標茶町、別海町、弟子屈町の酪農家、漁業者、地域住民の方々や自治体の協力をえて、平成6年から、西別川流域で植樹活動を実施しています。

農地開発などで失われた河畔林の再生のため、平成6年から20年以上にわたって、ナラ、ハンノキ、シラカバなどの広葉樹が計8万本以上植えられました。



○摩周水環境フォーラム

西別川の流域で村の守り神「コタンコロカムイ」（シマフクロウ）の鳴き声があつまでも聞かれ、また、地域の産業で日本一の鮭や牛乳が孫子の代まで川の流れのように続いてほしいとの願いのもと、「大気と森と川と海はひとつ」をテーマに全国から研究者を迎え、西別川の過去・現在・未来、利用と保全について考えるフォーラムが開催されています。

